

3. 木製はきもの類のデザイン開発並びに試作研究

日田産業工芸試験所 坂本 晃
高野 あや

要 旨

本研究は、「機能性履物」をキーワードとする基本方針で、提案性のある先導的な木製はきものの製品開発として、デザイン開発及び試作を行ったものである。

1. 目 的

バブル崩壊から低成長の時代へと突入してかなりの月日が経つが、回復の兆しはいまだに見えてこないようである。

日田の木製はきもの業界は小規模企業が集約されたもので、競合する産地も少ないため、需要と供給のバランスにより、比較的不況の影響を免れてきた。しかし、最近商品の動きが鈍ってきたという情報が伝わってきている。

景気の回復はまだしばらく先のことであろうが、その様なときこそ企業にとっては、充電チャンスだと思われる。つまり、充電とは生産に追われることなく時間的余裕があるときに、商品開発を行い、新しいデザインあるいはアイデアをストックしておくことである。

この研究では、そのための水先案内として、木製はきもののデザイン開発を行い、業界の指針となることを目的とした。

2. 方 法

2. 1 デザインコンセプトの設定

ターゲット、生活場面、キーワード、コンセプト、デザイン特性（形態、イメージ、構造等）を設定する。

2. 2 デザインワーク

2. 3 試作

3. 結 果

3. 1 デザインコンセプト

(1) Aグループ

ターゲット：学生時代をげたで過ごした経験のある40～50代男性

生活場面：1戸建て住宅の庭周り、及び近所の自然散策

キーワード：ネオ・ゲタ

コンセプト：現代生活にマッチするげた

デザイン特性：外反拇趾防止、扁平足防止、足の指とふくらはぎの筋力強化等の効果を持つ形状。底に裏ゴムを付けて、不快な音と足へのショックを和らげるようにした。自転車に乗れるように、げたの歯がペダルを咬まない形状とした。全体のイメージは「蛮カラ」「男らしさ」が基調であり、さらにA-1はワイルドなおおらかさを、A-2はダンディなスマートさでまとめた。

(2) Bグループ

ターゲット：30～40代の都会的センスを持ち、靴の生活時間が長く、足の痛みを感じている人々

生活場面：靴から開放されたときの足元を想定

キーワード：足裏に刺激を与える踏み竹型スリッパ

コンセプト：履いて歩けなくても、足裏が気持ちいい

デザイン特性：土踏まずを刺激し足の筋を伸ばすよう木部の形状を決めた。ベルト式。塗装及び着色はエスニックでクラシックなイメージで統一した。

(3) Cグループ

ターゲット：30～40代の都会的センスを持ち、靴の生活で足に痛みを感じている人々

生活場面：フローリングの室内

キーワード：リラックス、健康

コンセプト：外反拇趾矯正

デザイン特性：バンド部分に、親指と小指専用のカバーを付け、指と指の間が開くようにした。バンドと鼻緒、両方の機能を備えた構造。ナチュラルでカジュアルなイメージ。

(4) Dグループ

ターゲット：40代後半から50代後半のシャレタ感覚の都会派志向の男女

生活場面：子供達にも手が掛からなくなり、自分達の健

康と生活スタイルを見つめ直す年代。背筋を伸ばして、近郊の新しい建物などを見ながら散策を楽しむ情景

キーワード：自然志向、健康志向

コンセプト：バランス感覚を養うはきもの

デザイン特性：木製はきものに使う素材としては最も軽いキリ材を使用することで、素足にフィットすることを狙った。草履の「足半」と布の「スリッパ」をミックスしたようなもので、いつも背筋を伸ばした均整のとれた歩行を心掛けるはきものとした。ナチュラルでクリアなイメージ。

3. 2 デザインワーク

デザインコンセプトをもとに、アイデアの展開、取れん、評価及び設計を行った。

3. 3 試作

設計に従い6種12点を試作した。

(1) Aグループ

A-1(写真-1)は、げたの歯の機能を前後のかえりて代用し、安定度を高めた形態で自転車のペダルに対

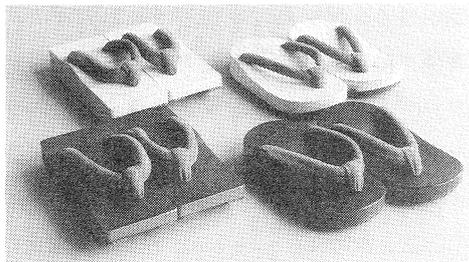


写真-1 A-1(右)、A-2(左)グループ



写真-3 Cグループ

応できる。第1指と第2指でしっかり鼻緒を挟めるように太めにした。スギ材を使用し、塗装はクリヤとカラークリヤを使用。

A-2(写真-1)は、自転車のペダルに対応できるように、従来横になっているげたの歯を縦にした。その結果、木目を横方向に使用しても強度が保てるうえ、木目の凹凸は滑り止めとして機能させることが可能となった。素材と塗装と鼻緒はA-1と同じ。

(2) Bグループ(写真-2)

現在の木製はきもの業界の分業システムが崩壊したときのために、業界の持つ設備で可能な木地加工を提案した。また、ベルトは釘で止める方法にした。

(3) Cグループ(写真-3)

木部を足の形にして、バンドと鼻緒の機能を備えた。

(4) Dグループ(写真-4)

はきものその後ろ半分の下側をカットすることで形態の面白さと、バランス感覚を取り入れた機能性を持たせた。

鼻緒付のものは、足型に合わせた形態として、丸紐を両側から差込み、裏側から釘止める簡単な取り付け方法により、量産にも適するように考えた。

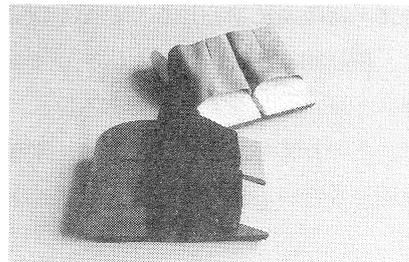


写真-2 Bグループ

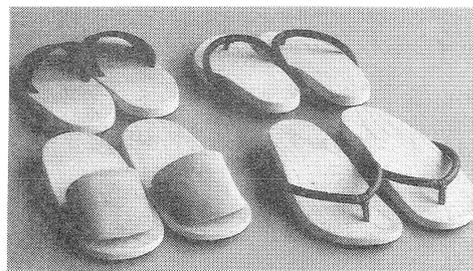


写真-4 Dグループ

4. 考 察

今年度の開発研究の基本方針は、「機能性履物」というキーワードである。そのため今回は、履きやすさという基本機能やファッション性に留まらず、積極的な機能を持たせることに重点を置いた。それにより他の木製はきものの差別化を図ることができ、眠れるニーズの発掘の

手がかりにすることができた。

日常の生活が車社会となって久しく、地下鉄等の交通機関の発達した大都会は別として、我々生活者は歩くことが少なくなっている。「老化は足から」「足は健康の源」という格言を忘れずに、生活者及び地場産業のために今後とも努力を続けたい。